

<p>I. 「…見よ、私は、ユダの部族に属するホルの子であるウリの子ベザレルを名指しで召した。私は彼を神の霊で満たして、知恵と理解力と知識を持たせ、あらゆる巧みな作業をさせ、巧みな設計をさせ、金と銀と青銅の作業をさせ、宝石を切ってはめ込み、木を彫刻して、あらゆる細工をさせる。見よ、私は自ら、ダンの部族に属するアヒサマクの子アホリアブを彼と共に任命した。私は、心に知恵のあるすべての者の心に知恵を置いて、私があるあなたに命じたものをすべて、彼らに作らせるようにした。(出 31:2-6)」</p>	<p>A. ベザレルは建築家の棟梁、神の建造における指導者でした。</p>	<p>1. 彼の名は、「神の陰の中に」を意味します。これはベザレルが建築家の棟梁として、神の恵みの陰の下にいる人であったことを示しています</p>	
		<p>2. ベザレルの父の名はウリであり、「エホバの光」を意味します。ベザレルの祖父の名はホルであり、「自由、高貴、純白」（清い、純粋を表徴する）を意味します。これら三つの名は、神の住まいの建造者がどのような人であるべきかを示しています。</p>	<p>a. もし私たちが神の恵みの陰の下にいないなら、多くのものが来て私たちに妨害するかもしれません。しかし、全能者なる神の陰はこれらのものを私たちから遠ざけ、私たちに平安の状態と状況にとどまらせて建造の働きを行なわせます。</p> <p>b. 建造者は、光に満ちているべきであり、何の暗い部分もあるべきではありません。</p> <p>c. 建造者は、自由で、高貴で、清く、純粋であるべきです。</p>
		<p>3. 神の住まいである召会の建造は、神のすべての民によって行なわれる高貴な働きです。しかしながら、この働きのための知恵、理解力、知識、技巧は、私たちに対してその霊である神ご自身でなければなりません。</p>	
		<p>4. 神の霊だけが、私たちを通して彼ご自身の住まいを建造することができます。</p>	
		<p>5. 召会を建造するために、すべての聖徒たちは、金としての神聖な性質、銀としてのキリストの贖い、青銅としての神の義なる裁きを、神の働きの材料としてどのように用いるかを知らなければなりません。</p>	
		<p>6. 宝石を切ってはめ込むとは、聖徒たちを助けて、宝石へと造り変えられ、調整されて神の建造へと適合するようにすることです。</p>	
		<p>7. 木を彫刻するとは、神の建造のために聖徒たちの人性の上で働くことです。</p>	
		<p>8. あらゆる細工をするとは、キリストの引き上げられた人性をもって、人の性格の中に細やかな美德を生み出すことです。それは神の住まいとしての召会を建造するために必要とされます。</p>	
		<p>B. アホリアブは、ベザレルの共同の建築家の棟梁でした。彼の名は、「私の父の天幕あるいは幕屋」を意味します。アホリアブの父の名はアヒサマクであり、「力あるいは支えの兄弟」を意味します。これら二つの名は、アホリアブが力と支えを伴う神の幕屋のための人であったことを表徴しています</p>	<p>1. ベザレルは王の部族であるユダに属していました。しかしアホリアブは、最も低いダンの部族から来ました。</p> <p>2. ソロモンとフラム・アビの下での宮の建造にも同じ原則を見ます。ソロモンはユダの部族に属しており、フラム・アビの母親はダン人の女でした。</p> <p>3. この事が示しているのは、神の住まいの働きが神のすべての民によって行なわれなければならない、その民は高い身分の人も、一見すると低い身分の人も含んでいるということです。</p>
<p>2. 私たちは神の霊で満たされるために、神の建造のために事を行なう意欲を必要とし、自分の天然の能力を放棄し、祈りの中で自分を空にして神に対して完全に開く必要があります。</p>			
<p>C. 幕屋の働き人が必要とするのは、心に知恵がある者となり、神から知恵と理解力と恵みを受け、心が引き上げられて、地上での神の住まいである召会を建造するという高貴な働きを行なうことです。</p>	<p>3. 私たちは毎日毎時、祈りを通して三一の神で新鮮に満たされる必要があります。クリスチャン生活は祈りの生活です。もし私たちが祈りに欠けるなら、私たちはその霊に欠けます。</p>		
	<p>4. 私たちが意欲を持ち、空であり、絶えず祈っている時、私たちは知恵を持って神聖な性質の中で働き、人が必要としている特別なキリストを彼らに供給します。それは彼らが命において成長するためであり、また神の建造のためです。</p>		

II. 安息日に関する言葉が、幕屋の建造の命令の後に続きます	A. 出エジプト記第 31 章 13 節と 16 節から 17 節は言います、「あなたがたは必ず私の安息日を守らなければならない。それは、あなたがたの代々にわたる、私とあなたがたとの間のしるしであって、私があなたがたを聖別するエホバであることを、あなたがたが知るためである。…それゆえ、イスラエルの子たちは安息日を守り、永遠の契約として、代々にわたって安息日を守らなければならない。それは、永遠に私とイスラエルの子たちとの間のしるしである。それは、六日の間にエホバが天と地を造り、七日目に安息し憩われたからである」	1. 七日目に、神は「安息し憩われ」ました。彼は人を見て、「非常に良い」と言い、彼の創造の働きから安息しました。	
		2. 人は神の憩うものでした。神は人をご自身のかたちに創造し、霊のある者にしました。それは、人が神と交わることができ、神の仲間また配偶者となることができるためでした。	
		3. 人の第一日は、安息と享受の日でした。	a. 神が安息したのは、彼が彼の働きを終え、満足したからです。神の栄光が現されたのは、人が神のかたちを持ち、神の権威が行使されて、神の敵サタンを征服しようとしていたからです。人が神を表現し、神の敵を対処している限り、神は満足し、安息することができます。
			b. 後に、第七日は安息日として記念されました。神の第七日は、人の第一日でした。人は創造された後、神の働きに加わったのではなく、神の安息に入りました。
			c. 人が創造されたのは、働くためではなく、神をもって満足し、神と共に安息するためでした。安息日は人のために設立されたのであって、人が安息日のために創造されたものではありません。
	d. 創世記第 2 章 2 節の安息は一つの種であって、全聖書の中で発展し、啓示録において刈り取られます。この種の発展は、旧約における安息日の安息と良き地の安息、また新約における主日の安息、そして千年王国の安息を含みます。		
		e. 安息の究極的完成は、新エルサレムを伴う新天新地の安息であり、そこにおいてすべての贖われた聖徒たちは神の栄光を表現し、神の権威をもって王として支配し、永遠に至ります。	
	B. 人の第一日が安息の日であったことは、神聖な原則を打ち立てました。すなわち、神はまず私たちに享受をもって供給し、それから私たちは神と共に働くということです。私たちは神の働きの中で神と一である必要があります。これは私たちが神を享受することを必要とします。		
	C. ペンテコステの日に、弟子たちは朝の九時に主の享受で満たされていました。それからペテロと十一人の使徒たちは立って、主と共に働きました。		
	D. 神にとって、それは働いて安息する事柄です。人にとって、それは安息して働く事柄です。それから、私たちは主と一になることによって主と共に働きます。		
E. 私たちが彼を私たちの真の安息日の安息として受け入れ享受するとき、彼は私たちの働く力また労苦する活力となります。			
F. 私たちは神の民として、一つのしるしを帯びていなければなりません。そのしるしとは、私たちは神に私たちの力、活力、すべてとさせていただく必要があります。それによって、私たちは彼と共に働いて、キリストのからだとしての召会を建造することができるというものです。これは彼を尊び、彼に栄光を帰します。			
G. 私たちは神のために働くとき、彼を享受せず、彼と一でないなら、その結果は霊的な死であり、またからだの交わりを失うことです。			
H. 私たちが帯びるしるしとは、私たちが神と共に安息し、神を享受し、神のゆえに憩い、まず神で満たされるというものです。それから私たちは、私たちを満たす方と一になって、彼と共に働きます。			
I. 神の言葉を供給するために、彼は私たちの安息、憩い、活力、力、すべてです。			
J. これは私たちと神との間の永遠の契約、永遠の合意です。	1. 安息日を守ることは永遠の契約であって、私たちが彼と一であることを神に保証します。それは、私たちがまず彼を享受して、それから彼と共に、彼のために、彼との一の中で働くことによります。		
	2. ここで安息日が述べられていることは、幕屋とその調度品に関するすべての事が、私たちを神の安息日に導き、その安息と憩いを持たせ、神が決意し行なった事の享受を得させることを示しています。		

- ① アウトライン: 神の住まいである召会の建造は、神のすべての民によって行なわれる高貴な働きです。しかしながら、この働きのための知恵、理解力、知識、技巧は、私たちに対してその霊である神ご自身でなければなりません。神の霊だけが、私たちを通して彼ご自身の住まいを建造することができます。

あなたは神の建造のために何かを行なう意欲を持っていますが、あなたの天然の能力は完全に放棄させられなければならないことを認識しなければなりません。神はあなたの意欲を尊んでおられます。その意欲は、神が起こしたものです。しかし、あなたの能力(あなたのできる事、知っている事)は、神の評価においては何の価値もありません。もしあなたがあなたの能力を拒絶するなら、このように放棄することによって、神は立場を得てあなたの中に入ってあなたを満たします。まず、あなたは意欲を必要とします。それから、神はあなたが開くことを必要とします。召会生活の真の経験でさえ空にされる必要があります。あなたと私は召会のリーダーシップのもとで、毎日毎時、三一の神で新鮮に満たされる必要があります。

あなたは世の中の技能や知識を学ぶ必要があります。旧約で最も神によって用いられたモーセと新約で最も用いられたパウロは、いずれも若い時に最高の教育を受けました。あなたが神によって用いられるために、できるだけ高い教育を受けるべきです。教育を受けた後、あなたは天然の能力に頼るのではなく、空にされて、主に開き、主の霊で満たされなければなりません。

モーセもパウロも天然の能力によって神に仕えようとした時、神によって完全に拒絶されました。彼らの能力は神の評価において、何の価値もありませんでした。あなたは神に開き、神の霊で満たされなければ、神の家、召会を建造するという高貴な働きにあずかることはできないのです。

兄弟姉妹と組み合わされて奉仕をする時、以前の経験を単純にコピー（コピーして貼り付ける）すればいいと安易な考えを持ってはいけません。過去の経験は役に立ってもそれに頼らず、神に開き、主の名を呼び、主の霊で満たされなければ決して建造に役立つ奉仕はできません。この重要な原則は実は召会の奉仕だけでなく、会社で業務を遂行することや家事を適切に行うことにおいても全く同じです。

- ② アウトライン: ベザレルは王の部族であるユダに属していました。しかしアホリアブは、最も低いダンの部族から来ました。ソロモンとヒラムの下での宮の建造にも同じ原則を見ます。ソロモンはユダの部族に属しており、ヒラムの母親はダン人の女でした。この事が示しているのは、神の住まいの働きが神のすべての民によって行なわれなければならない、その民は高い身分の人も、一見すると低い身分の人も含んでいるということです。

幕屋の建設の棟梁は、高貴な家系のベザレルと低い家系のアホリアブでした。この事は、神の建造の働きには様々な種類の人が組み合わされて奉仕する必要があることを示しています。召会建造には高貴な人が必要であり、そうでない人も必要です。兄弟が必要であり、姉妹も必要です。日本語を話す聖徒たちが必要であるだけでなく、中国語の聖徒、英語の聖徒、韓国語の聖徒、また黄色人種の聖徒だけでなく、黒人、白人、あらゆる種類の人がブレンディングされる必要があります。あなたは世の中の人のように、人を外側（学歴、社会的地位、家系など）だけで判断してはいけません。彼らはみな主の中で建造に役立つ肢体なのです。

- ③ アウトライン: 私たちが彼を私たちの真の安息日の安息として受け入れ享受するとき、彼は私たちの働く力また労苦する活力となります。私たちは神のために働くとき、彼を享受せず、彼と一でないなら、その結果は霊的な死であり、またからだの交わりを失うことです。

Iコリント 15:10 しかし、神の恵みによって、今の私があるのです。そして私に対する神の恵みは、無駄にはなりません。それどころか、私は彼らのだれよりも多く労苦してきました。しかし、それは私ではなく、私と共にある神の恵みです。

召会生活の中で、私たちは多くの事を行なっても、まず主を享受しておらず、主と共に、主と一になることによって主に仕えていないかもしれません。そのような奉仕は霊的死を被るという結果になります。召会に対するどのような奉仕であれ、主を享受することがなく、主と一であることがないなら、霊的な死をもたらします。私たちはそのように奉仕するときはずっと、自分自身をからだの中の交わりから断つのです。

あなたは人として、最も重要なことは、まず主を享受し、主の中で安息することです。通勤時の満員電車の中の多くの人は、仕事をする前から苦さに満ち、苦しんだ表情をしています。しかし主にある信者であるあなたは、主を享受し、主の中で安息し、主の中で喜んでいることに注意を払う必要があります。安息と喜びがあるかどうか、あなたの霊的健康を示すバロメーターです。主を安息として享受する時、あなたは働くための活力を持つことができます。毎朝兄弟姉妹と共に主を享受して安息と喜びをもって出勤し、活力をもって業務を遂行して下さい。あなたは神の民として、神を活力とし、活力で満たされた人になるべきです。決して神を持たない人と同じような生活をしてはなりません。

仕事に振り回されるビジネス・ライフを送っているのは、あなたは決して業務をコントロールし、良い仕事をするにはできません。会社において、エクセレント・パフォーマーになる秘訣は、主を享受し、安息と喜びを持ち、活力をもって業務を遂行することです。

521 試練の中での慰め — 主の中での喜び (英 717)

1. おお、主のなかでよろこぼう、 ころみがあるとも、
かなんがなみのごとく— われにおそいかかるも。
(復)
いつもよろこび、よろこべ、
ためいきつかず、うたおう、
死ぬよりは生きていよう、
いつもよろこぼう！
2. おお、主のなかでよろこぼう、 くらやみおそうとも、
あく魔はわれらのさん美を おそれるゆえにうたおう。
3. おお、主のなかでよろこぼう、 やまいでよわるとも、
主をよろこぶことはわれの ちからであるがゆえに。

717. Comfort in Trials – By Rejoicing in the Lord

1. O let us rejoice in the Lord evermore,
Though all things around us be trying,
Though floods of affliction like sea billows roar,
It's better to sing than be sighing.
(C)
Then rejoice evermore, rejoice evermore,
It is better to sing than be sighing;
It is better to live than be dying;
So let us rejoice evermore.
2. O let us rejoice in the Lord evermore,
When the darts of the tempter are flying,
For Satan still dreads, as he oft did of yore,
Our singing much more than our sighing.
3. O let us rejoice in the Lord evermore,
When sickness upon us is stealing,
No cordial like gladness our strength can restore,
For joy is the fountain of healing.

521 试炼中的安慰—在主里的喜乐

1. 哦，让我们在主里面常喜乐，虽然四围充满了凶恶，
虽然患难如同波涛在冲击，但是歌唱总胜似叹息。
应当时常喜乐，当时常喜乐，无论如何，歌唱总胜叹息，
无论如何，生存总胜死寂，所以应当时常喜乐！
2. 哦，让我们在主里面常喜乐，虽然火箭暗中频频戳，
因为撒但还是像从前那样惧怕赞美远过于悲伤。
应当时常喜乐，当时常喜乐，无论如何，歌唱总胜叹息，
无论如何，生存总胜死寂，所以应当时常喜乐！
3. 哦，让我们在主里面常喜乐，虽然精神在病中消磨；
因主的喜乐就是你的力量，若靠主喜乐就必刚强。
应当时常喜乐，当时常喜乐，无论如何，歌唱总胜叹息，
无论如何，生存总胜死寂，所以应当时常喜乐！